

実証実験のイメージ

1. 受信機開発のための実験

【山形ラジオ観安心安全端末】
(防災無線補完用の72時間電池駆動端末)

【山形ラジオ観タブレット型端末】
(地域から送られる有線放送の情報を「リアルタイム」でリアルタイムにお届け！)

【家庭内タブレット型端末イメージ】

【車載型端末イメージ】

VHF-Low帯の周波数を使用した本放送と同様の電波発射による実験を実施することで、受信機メーカーによる開発を促進する。
特にV-Lowチューナーや小型アンテナのフィールド試験に注力するため、アンテナやチューナーなどデバイスメーカーに広く情報を公開し参加を求める。

位置情報連動型データ放送の検証

車両位置に応じた交通情報やPOI情報の提示機能を実フィールドで検証する。非常時においてもこの仕組みを用いて、災害発生時にドライバーへの災害・避難情報の配信を行うことで、ドライバーへの安心安全メディアとしての役割を果たす事が出来る。

災害時の情報配信検証

緊急時TMCC信号を用いた自動起動システムを実施し、災害発生時の情報伝達手段として検証する。自治体や公共機関の情報を集約し利用するサービスが実用化されつつあるが、このデータ活用や接続システムを開発・検証し、災害時の有効性や放送運行体制を検証する。

通信機能を持たない受信機での課金システム開発

① 施錠したコンテンツを放送波で配信
② 解錠のための鍵を携帯で取得(決済処理)
③ コンテンツを解錠
鍵の受け渡し

通信機能を持たないフォトフレームやカーナビ型マルチメディア放送端末に対して、携帯電話等で決済し、鍵を取得。マルチメディア放送端末に何らかの手段で渡して鍵を解除するシステムの開発と実証実験を行う。

地域情報データ放送の実証実験

自治体、公共機関などからの情報や、新聞社、広告主などからの生活情報を、エリアを詳細に区分してデータ放送でフィルタリングして表示する事で、新たな地域情報メディアとしての役割と平常時のビジネス性を検証する。

放送波ルーター/サーバ型受信機の開発・検証

V-Lowマルチメディア放送を受信し、Wi-Fiに変換して家庭内に再送信する「放送波ルーター/サーバ型受信機」の受信環境を用意し、タブレット端末で自由にアプリを開発できる環境の構築と検証を行う。

市内無料Wi-Fiと各種交通サイネージとの連携実験

市長が推進する福岡市内無料「Wi-Fi」ネットワークと船舶・バス・地下鉄の公共交通機関サイネージとの連携放送実験を実施する。

公共デジタルサイネージへの放送実験

街頭や交通車両内に設置したデジタルサイネージや、飲料自動販売機に向けた放送実験を実施する。また、地域ごとにきめ細かい安心安全情報を公共サイネージに表示することで、緊急災害発生時の避難誘導等の情報配信を実現する。